

未来をひらく 思いをつたえる

# Hirakû

39

表紙：クラフト“元気に泳ぐこいのぼりと春の空”

空高く泳ぐ2匹の大きなこいのぼりには、子どもたちの元気な気持ちが込められているようです。

よく見ると、その中には小さなこいのぼりの姿も。まるで大きなこいが、小さなこいたちを優しく包み込んでいるようですね。

下では新聞紙のかぶとをかぶった子どもたちが空を見上げ、そばにはしょうぶの花がやさしく揺れています。

春の風の中で、みんなの健やかな成長をそっと応援してくれているようです。

## アイデアを お待ちしております！

「Hiraku」では、英語・幼児教育の  
最新ニュースやトピックなど皆さまに  
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を  
お待ちしております！

「Hiraku」編集部

TEL：06-6135-0150

Mail：hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2025年5月発行 Vol.39

次回7月末  
発行予定

株式会社キンダーキッズ

TEL：06-6135-0150

☎ 530-0033 大阪市北区池田町3-1

ぶらら天満ビル2F

www.kinderkids.com



★My Stepping Stone<File9> ★SODATU × キンダーキッズ 英検対策講座

★25周年記念イベント年間予定案内 ★Infinity Exposition

★きみチャンネルの紹介



日本の心と、英語の力。Kinder Kids inc.

# My Stepping Stone 〈File9〉

スタート地点はキンダーキッズ。

卒園後、自らの力で切り開いたフィールドで、

奮闘している卒園生をご紹介します。

## 「300年前と同じ歓喜に包まれる奇跡」に魅せられて 音楽こそが自分にとって、最も人生を表現するもの

2015年にキンダーキッズ茨木彩都校を卒園した中村晴さん。

現在は高校2年生で、国内外の舞台上でヴァイオリン演奏に取り組んでいます。数々のコンクールで受賞を重ね、将来は音楽で生きていくことを目指している晴さんに、その原点と、音楽に懸ける想いについて伺いました。

### 時を超えて響く音に魅せられ、気づいた音楽の本質

ヴァイオリンを始めたのは、姉が習い始めたのがきっかけでした。最初は深い理由もなく続けていましたが、いつしか「やめたい」と思うことは一度もなくなっていました。練習が辛い時期も、「やめてもいいんじゃない?」と言われたこともありましたが、でもなぜか、やめようという気持ちにはならなかったのです。その理由がようやく自分の中で言葉になったのは、**音楽の中に「人生」が見えると気づいたとき**でした。誰かの演奏を聴くと、その人の生き方や思いが音になって伝わってくる。音楽は、言葉以上に人の人生を語れる手段だと感じたのです。さらに、自分が演奏する中で改めて気づいたことがあります。何百年も前に生まれた楽曲が、時代や国を超えて今もなお人の心を動かし続けているという事実です。**300年前と同じ歓喜に包まれる奇跡のような体験**— それこそが、僕が音楽に惹かれてやまない理由です。

### 英語は、音楽の道を切り拓く大きな力

英語との出会いはキンダーキッズでした。そして姉がキンダーで出会った音楽が、僕にとっても大きなきっかけになりました。幼少期から自然に英語に親しんできたことで、小学校入学時には英語で話すことが特別なことではなくなっていました。今では海外の先生と通訳なしでレッスンを受けたり、留学候補の音大教授に直接連絡を取ったりと、英語は音楽の道を切り拓く大きな力になっています。言葉の壁がないことで、自分の言葉で気持ちや表現のニュアンスを伝えられることも自信につながっています。英語ができたからこそ、ヴァイオリンに集中できたという実感があります。



### 【主な音楽活動・受賞歴】

第46回全日本ジュニアクラシック 第1位

2024年全日本弦楽コンクール 金賞 並びに最優秀賞

第15回セシリア国際音楽コンクール 第1位 など多数受賞

ソリストとしてブルガリア・スタラザゴラ国立オペラ座にて同歌劇場管弦楽団と共演。世界的ヴァイオリニスト レイ・チェンのオーディションに参加し、その内容がL.A. Times電子版に掲載された。13歳よりリサイタルを開催し続け、ボランティア演奏にも積極的に参加。



茨木彩都校  
卒園生

中村 晴くん

同志社国際学院  
国際部 2年生

### 情熱は衰えない。音楽で生きる覚悟を胸に

高校ではDP(国際バカロレア)を選ばず、音楽に集中する道を自分で選びました。姉の助言も後押しにはなりましたが、「音楽で生きていきたい」という気持ちは、自分の中で自然にかたまっていました。コンクールで思うような結果が出ずに悔しい思いをしたこともありましたが、そのたびに気持ちを整理し、またチャレンジしようと立ち上がってきました。僕は、目の前の作品に没頭し、それを人前で演奏して拍手をもらってご飯を食べられたら、それで人生は充分幸せだと思っています。



たとえ生活が乏しくなっても、音楽と一生を共にできることが、何よりの喜びです。歳を重ねて技術が衰えたとしても、情熱はきっと高まり続ける。だからこれからも、自分の音を信じて進んでいきたいと思います。



### “教育ママ”を卒業したら、 晴は自分の道を切り拓き始めた

長女の育児では「よい教育を与えなければ」と思い詰め、結果として突っ走りすぎてしまいました。その反省から、息子にはなるべく自由に、のびのびと育てほしいと願い、本人の「楽しい」「やってみたい」を大切にしてきました。その中で、キンダーキッズに通わせて本当に良かったと思うことがいくつかあります。長女が「自分の子どももキンダーに入りたい」と言ってくれたこと、そして晴が、生涯支え合える親友に出会えたことです。

晴の音楽も、姉の影響ではありましたが、いつの間にか彼にとってかけがえのないものになっていたように思います。進路のことも、私は何も決めません。「母ちゃんにはわからん。晴はどうしたい?」とだけ伝えてきました。失敗してもいいから、自分で決めた道を信じて進んでほしい。それが、今の私なりのサポートのかたちです。音楽の道は決して平坦ではありませんが、名前のごとく、晴の「晴れやかな心」が、これからも彼らしく響いていくことを願っています。

晴くんのお姉さん・Hさんのインタビューは、Hiraku vol.29に掲載しています。  
音楽の世界でそれぞれに歩みを進める姉弟の、これからの活躍を応援しています!





**小茂島 雅史**  
Masafumi Komotori  
SODATU Lab 株式会社  
代表取締役

慶應義塾大学院卒業後、外資系証券会社モルガン・スタンレーMUFG証券に入社。退職後、「子どもたちの、無限の可能性を追求する」をビジョンに掲げることも教育のSODATU Lab株式会社を創業。

のスキルに強みがあります。一方で、英検ではリーディングやライティングといった“読む・書く”力も重要視されるため、試験への挑戦を通して英語力をより多角的に伸ばすことができます。

また、英検に向けた学習は、目的を持った取り組みとして、子どもたちにとっても日々の学びにメリハリを生みます。とくに小学校に進学した後、英語を話す機会が減少しがちな環境において、英検は学びの継続とモチベーション維持にも役立ちます。英語力を“見えるかたち”で確認できる点も、保護者にとって大きな安心材料となっています。

さらに、英検は高校・大学入試においても活用の幅が広がっており、準1級や2級の取得が内申点の加点や出願資格として認められる学校も年々増えています。英検を通して培った力が、将来の選択肢を広げる「ことばのパスポート」となる一。それが、SODATUが英検への挑戦を積極的に推奨する理由です。



### 最近の英検のトレンドについて

近年の英検では、「読む・聞く」に加えて、「書く・話す」といったアウトプット型のスキルがより重視されるようになっていきます。とくにスピーキングとライティングの比重が高まり、4技能をバランスよく育てる学習がますます重要になっています。

一方で、試験内容そのものは年々実践的になっており、スピーキングやライティングでは、自分の考えを構造的に伝える力が求められています。こうした背景の中で、英語環境で育つ子どもたちが、その力を確実にスコアに結びつけるためには、年齢や特性に応じた確かなトレーニングが欠かせません。今後ますます問われる“発信力”を、実践的に養う英検対策の重要性が高まっています。

### SODATU Labが英検取得を推奨する理由

SODATUでは、英検を単なる資格取得の手段としてではなく、4技能をバランスよく育むための貴重な学びの機会として捉えています。日常的に英語環境にいるキンダーキッズ／グラッドクラブの子どもたちは、特にリスニングやスピーキングといった“耳と口”

### SODATU Labの英検トレーニングの特徴

SODATUの英検対策プログラムは、一般的な英検講座とは異なり、キンダーキッズおよびグラッドクラブで育った子どもたちの特性に合わせて設計されています。SODATUは、全国の保育園や幼稚園、学童などの施設に対して、共創型のオーダーメイドでプログラムを提供している教育パートナーですが、キンダーキッズにおいては、その英語環境やカリキュラムの特性を踏まえた、より高度で実践的な英検対策を展開しています。英語を“使う”ことに長けた子どもたちが、英検で求められる“読む・書く”力もバランスよく育てられるよう、レベルや学年に応じた細かなクラス設定や、段階的なカリキュラムが組まれています。クラスの目的や対象に応じて、ネイティブ講師または日本人講師がそれぞれ指導にあたり、英語での自然な運用力と、日本語での理解をサポートする体制が整えられています。特に効果を発揮しているのが、試験直前の実践演習やマークシート練習といった、本番を意識したトレーニングです。英語力があっても、形式に慣れていないことで本来の力を出し切れないことは少なくありません。SODATUでは、そうしたギャップを丁寧に埋めながら、子どもたちが自信を持って本番に臨めるよう、合格までのプロセスをしっかりと支えています。



### 合格者の声



**E.M.さん (G1)**

### 準2級合格！ E.M.さん (G1) の場合

#### Q：英検の勉強で難しかったことは？

A：準2級の問題には、日本語でも意味が難しい単語があって困ることがありました。でも、国語辞典を使って調べたり、おうちの人と一緒に意味を確認したりして、少しずつ覚えました。英語の勉強をしながら、日本語の語彙力も増えたと思います。

#### Q：お家での勉強方法は？

A：宿題で出された単語リストをしっかりと覚えて、試験で確実に得点できるようにしました。また、過去問題集のテキストを何度も解いて、試験の形式に慣れるトレーニングを行いました。毎日の学習を継続することを大切にしていました。

#### Q：SODATUのプログラムで特によかったことは？

A：これまでにいくつか英検対策講座を受けたけど、ソダツラボの授業が一番実践的で、本番に近い形で練習できたのがよかったです。過去問やマークシートの使い方を練習していたから、不安なく受験することができました。先生もとても熱心で、やる気が続きました。

### 担当講師より

E.M.さんの合格は、日々の努力の積み重ねによるものです。授業中の集中力はもちろん、困っている友達に自然と手を差し伸べる姿が印象的でした。ご家庭でもしっかりと準備されていて、家族で学びに取り組む時間を楽しんでいたのではないかと感じました。これからも、英検を通して多くの子どもたちが成長していくことを願っています。



卒園生による  
余興を予定!



関西

## ディナーイベント

ホテルニューオータニ

2025/8/30



関東

## ファミリー食事会

馬事公苑内レストラン

2025/9/20



ランチブッフェ、  
スタンプラリーなどの  
アクティビティ!

関西

## ゴルフコンペ

太子カントリークラブ

2025/9/25



プレー終了後、  
表彰式&パーティー  
を実施!!

関西

## 阿波座フェスティバル

阿波座校と近隣施設

2025/9/15



親子で楽しめる  
アミューズメント、フード、  
スポーツ、カルチャーが  
満載の素敵な1日



おかげさまで  
キンダーキッズは

25周年

# 記念イベント 開催!

キンダーキッズは今年で25周年を迎えます。  
子どもたちの成長を見守ってくださった皆さまと、  
特別な一年を一緒に楽しめるよう、  
各地域でさまざまなイベントを企画しました。  
思い出づくりのひとときに、ぜひご参加ください。



キンダー  
ピクニック  
パーティー

関西

万博記念公園・須磨離宮公園  
奈良公園・京都府立植物園

2025/11/7



関東

井の頭恩賜公園

2025/11/7



名古屋

モリコロパーク

2025/11/7



福岡

キンダー&グランド合同  
お祭りイベント

Fukuoka Festival

福岡校

2025/11/7

グランドクラブ  
イベント

関西

クリスマスパーティー

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

2025/12/6・7



関東

クルージング  
クリスマスパーティー

2025/12/13 ※出港地未定



福岡

2025/12/13

クリスマスパーティー

名古屋

2026/3/14

スプリングパーティー





## 子どもたちの学びが作品となり、言葉となり、 誰かの心に届く瞬間

毎年3月、インフィニティ初等部で開催される「Infinity Expo」は、1年間の学びを発信する場です。2024年度3学期 Expoは、3月2日に開催されました。教室の外へ飛び出した学びは、仲間との対話や来場者とのふれあいの中で、より深く、より豊かに育まれていきます。

発表や展示、読み聞かせや体験コーナーなど、子どもたちはそれぞれのかたちで「伝えること」に挑み、見つけたこと・感じたことを自分の言葉で語ろうとしていました。その姿には、“学ぶ”ことの本質と、“伝える”ことの力強さがあふれていました。

## IPC とつながる子どもたちの表現

Infinity Expo の根底にあるのは、「学びのアウトプットを通して、他者とつながる」という思想です。子どもたちはただ展示するのではなく、自分が何を学び、どう感じたのかを来場者に伝えることで、学びを“自分のもの”にしていきます。

今年度は、各学年がそれぞれの IPC（International Primary Curriculum）ユニットをもとに、独自の視点で発表や体験活動を企画。展示やパフォーマンスには、単元で得た知識に加え、自分たちの興味や工夫が色濃く反映されており、どのブースからも“主体的な学び”の息づかいが感じられました。

## テーマを生かした展示と体験の数々

Grade 1では「健康とウェルビーイング」をテーマに、ヨガステーションでの体験やクイズを通じて、心と体のバランスの大切さを来場者と共有。

Grade 2は「Magic Toymaker」のユニットから発展させ、世界のおもちゃや遊びを紹介するブースを展開。中には失敗作をあえて展示するコーナーもあり、「挑戦」と「選択」の価値が伝わる工夫が光りました。

Grade 3と4は、古代文明を探究する「Temples, Tombs and Treasures」の学びをもとに、古代エジプトの文化や文字を体験できる展示やプレゼンテーションを実施。

歴史クイズや文字体験などを通じて、来場者も自然と学びの世界へ引き込まれていきました。



「見え方の不思議」をテーマにした“目の錯覚おもちゃ”を展示。作品づくりを通して、発想力と表現力が育まれます。



古代エジプトの神殿や文字について、自分たちの調べたことをスライドを使って発表。

## 子どもたちが動かす、学びのプロジェクト

Infinity Expoは、ただ作品や発表を披露する場ではありません。そこに至るまでの準備こそが、子どもたちにとって大きな学びの機会になります。今年度のExpoでは、各学年がIPCのテーマをもとに展示や体験ブースを企画。オンラインデザインアプリを使ってポスターを制作したり、クイズのルールを考案したりと、活動の提案から運営までを子どもたち自身が担う姿が印象的でした。中には、来場者が自然とブースに立ち寄りたくなるように、導線やレイアウトにまで配慮するグループも。低学年では教員が関わり方を調整しながら、必要に応じてScaffolding（足場かけ）を工夫することで、子どもたちの主体性を引き出していきました。

## 発表・運営を通して見た子どもたちの成長

当日、会場では在校生が来場者に英語で丁寧に説明する姿や、キッズカフェで自作のメニュー表や看板を掲げて注文を受ける様子が各所で見られました。また、体験型ブースでは来場者の反応を見ながらルールを工夫するなど、子どもたちの主体性と柔軟な対応力が発揮されていました。なかでも注目を集めたのが、体育館に設置されたドーム型プラネタリウムでのアニメーション作品『ブルドッグ探偵といときえたほし』の上映。この作品は、2025年大阪・関西万博の会場で展示予定のもので、高学年の児童たちがその英語訳を担当しました。



「ブルドッグ探偵と消えた星」上映のため設置された移動プラネタリウム。会場には上映を楽しみに多くの人が来場。



四国の魅力を紹介するパンフレットはG3の子どもたちの手作り。地域の文化を調べ、英語で発信する力を養いました。



「数字マジック、わかるかな？」来場者との対話を楽しみながら、自分の言葉で説明に挑戦。学びの面白さを伝えようとする姿が印象的でした。



手作りポスターや飲み比べセットを通して、フレッシュジュースと市販品の違いを楽しく伝えるカフェブース。

自らの言葉で物語を世界に届けるといふ、たいへん名誉な経験は、子どもたちにとっても大きな誇りとなりました。準備から運営に至るまでの過程で、子どもたちは「協働する力」や「粘り強さ」、そして「自分にもできた」という自己効力感を育みました。Expoでの挑戦は、教室では得がたい貴重な学びとして、彼らの心に刻まれていきます。

## 教科を越えて結びつく、子どもたちの理解

Expoでは、単元ごとの探究テーマをもとにした発表が行われましたが、その表現のかたちは一様ではありません。子どもたちは教科を横断しながら学びをつなげ、自分たちならではのかたちでアウトプットへと昇華させていきました。たとえば Grade 1では、「健康とウェルビーイング」をテーマにした学びから、“ヨガステーション”という展示が生まれました。感情のセルフマネジメントについての学び（Health and



Wellbeing)、ヨガの動きを取り入れた身体表現 (PE)、そして世界に広がるウェルネス文化としての捉え方 (International) を統合し、来場者に向けて自分たちの言葉で発信する場をつくりあげたのです。こうした横断的な学びこそ、IPCが目指す「つながりのある理解」の具体的なカタチといえるでしょう。

Expoを終えた子どもたちの姿には、単に知識を伝えただけでは得られない自信と充実感がにじんでいました。誰かに伝えるために言葉を選び、問いかけに答え、試行錯誤を重ねる中で、「できた」「伝わった」という手応えが育まれていったのです。指導にあたった先生たちは、こうした過程を通して「自分の考えを持ち、相手に届く力」をさらに伸ばしていきたいと話します。Expoは一日限りのイベントではなく、その後の学びや挑戦の土台となる大切なプロセス。子どもたちはこれからも、自分の世界を広げながら“伝える力”を磨き続けていきます。そして私たちは、そんな子どもたちが「100年間学び続けられる人」と成長していけるよう、日々の学びを支えています。



他学年の展示に興味深そうに見学する児童。学びを共有する中で、新たな発見や気づきが生まれます。



来場者も自由に参加したアート制作コーナー。Expoは学びを共有し、共につくる場でもあります。

## IPCとは…



最大10教科を横断的に学ぶ国際的なカリキュラムで、英語の読み書きや読解に加え、探究学習を通じて**教科の枠を超えた理解**を育みます。世界中の学校とつながるネットワークの中で、子どもたちは自分の疑問を出発点に、**多角的な学び**を深めていきます。

# INFINITY GLOBAL ELEMENTARY SCHOOL インフィニティ国際学院初等部 教育懇話会のご案内

「インフィニティ初等部ってどんな学校?」「キンダーキッズとの共通点は?」といった疑問にお答えしながら、実際にキンダーキッズを卒園後、インフィニティ初等部に進学した保護者の声もご紹介いたします。ぜひこの機会にご参加ください。

**日程・会場** 6月5日(木) … 堂島校(大阪市北区南扇町6-26)  
7月3日(木) … 阿波座校(大阪市西区立売堀6-5-13)

**対象** キンダーキッズ在園中のK1~K3生の保護者さま  
※ひと家族2名様までご参加 ※お子さまの参加はご遠慮ください

**持ち物** 当日は、上履き/靴袋をお持ちください。

**駐車場** スクールの駐車場はご利用いただけません。参加の際は、公共交通機関をご利用いただくか、近隣のパーキングをご利用ください。

詳しくは  
Kinder+  
から



親として知っておきたい、これからの時代に大切な学びと育ちの話をお届け!

このたび、キンダーキッズ代表・中山貴美子が司会を務め、教育や子育てに関する対談をお届けする番組「きみチャンネル」をKinder+で配信をスタートします。

卒園後の進路情報に加え、子どもたちの未来をより豊かにするための視点やヒントを幅広く発信していきます。AIなどの技術革新が進むこれからの時代、子どもたちに本当に必要な学びとは何か。各分野の専門家をゲストに迎え、保護者の皆さまと一緒に、子育てや教育について考える時間をつくっていききたいと考えています。

初回から第3回までは、香里ヌヴェール学院(小・中・高)の池田校長先生をお招きし、小学校選びやその先の進路、英語教育の可能性と課題、また保護者の方が学校説明会では気になるけれど聞きたいことを、中山が率直に質問していきます。

お子さまの未来を見据え、今できることを考えるきっかけに。  
「きみチャンネル」、ぜひご期待ください。



香里ヌヴェール学院(小・中・高)の池田校長先生との対談の様子

## 「きみチャンネル」

視聴は **Kinder+** の CONTENTS から

Check it out!

